

2012年2月14日  
公益財団法人ヤマト福祉財団

### 岩手県[製氷・貯氷施設回復支援事業]

#### 大船渡市漁業協同組合製氷・貯氷保管施設の地鎮祭が執り行われました

「製氷・貯氷施設を復旧し、一刻も早く市場本来の機能と活気を取り戻したい…」。2012年2月10日、本年7月完成予定の大船渡市漁業協同組合製氷・貯氷保管施設の地鎮祭が執り行われました。これは公益財団法人ヤマト福祉財団(本部:東京都中央区、理事長:有富 慶二、以下ヤマト福祉財団)「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第二次助成先の一つ岩手県の「製氷・貯氷施設回復支援事業」で、助成金2億4,800万円を活用して、被災した大船渡市漁業協同組合の製氷・貯氷施設を新設する事業です。(総額11億円の事業費の内、岩手県、大船渡市の負担分2/9の2億4,800万円を助成)

大船渡魚市場は、大船渡市をはじめ岩手県沿岸南部の漁業者、さらに沖合の三陸漁場で操業する廻来漁船の重要な水揚基地です。しかし震災と津波により市場を支える多くの施設・設備を損失しました。カキ、ホタテ、ワカメの養殖技術を確立したことで知られる岩手県大船渡市漁業協同組合は、岩手県や大船渡市と協力して復旧を進め、昨年6月に市場の営業再開を果たしました。市場に活気は戻ってきましたが、安定的な水揚げ確保には漁船への氷の供給能力の回復が不可欠です。地鎮祭で岩脇 洋一組合長は「岩手県の水産業復興のためにも、県内で一番大きなこの市場に一刻も早く製氷・貯氷保管施設を復活させたかった」と話しています。



#### 製氷能力が震災前の3倍以上に

7月に完成予定の施設は製氷能力が震災前の3倍以上の1日100トンが可能になり貯氷量もこれまでの2,260トンから3,000トンになります。

この施設が完成すれば、約30キロの海岸線で、震災の被害から立ち直り養殖を再開した水産物、また市場の水揚げの主力である「大船渡のさんま」などを全国の消費者へお届けできます。



地鎮祭には大船渡市の水産業復興に係る多くの方が出席しました



この場所に待望の製氷・貯氷保管施設が建設されます